

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	ダリナバルシン
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	PTCL-009
登録日・更新日	2022年10月25日
削除日	
出典	ダルビアス添付文書
入力者	園部 あみ

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	ダリナバルシン (ダルビアス点滴静注)	135mg	300mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV ※ <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CV <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	1時間	day1-5
	生理食塩液	250mL	-			

1コースの期間	21日間
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【開始基準】 ANC>1000/μL、Plt>5万/μL、Hb>8.0g/dL、AST<100 IU/L、ALT<150 IU/L、Scr<1.5mg/dL、QTc<450ms</p> <p>【減量・中止基準】 Grade1又は2のせん妄、錯乱等の精神障害、中枢神経障害 ・症状が回復するまで休薬する。回復後は同量で投与を再開する。</p> <p>Grade3の副作用(悪心・嘔吐、下痢及び臨床的意義のない無症候性の検査値異常を除く) ・Grade1又は開始前のGrade1に回復するまで休薬する。回復後は200mg/m²に減量して投与を再開する。200mg/m²への減量後に再発した場合は投与を中止する。</p> <p>Grade3の悪心・嘔吐、下痢 ・対症療法で症状が改善しない場合は回復するまで休薬する。 回復後は200mg/m²に減量して投与を再開する。200mg/m²への減量後に再発した場合は投与を中止する。</p> <p>Grade4の副作用(臨床的意義のない無症候性の検査値異常を除く) ・投与を中止する。</p>
前投薬	なし
その他の注意事項	<p>※中心静脈から投与することが望ましい。末梢静脈から投与する場合には、血管外への薬液の漏出に注意して慎重に投与すること。末梢静脈からの投与により投与部位の異常が発現することがある。</p> <p>・心電図検査及び電解質検査 QT間隔延長等の心電図異常があらわれることがあるので、本剤投与開始前及び本剤投与中は心電図検査及び電解質検査(カリウム、マグネシウム等)を行う。</p> <p>・1バイアルに注射用水1.8mLで溶解し、75mg/mLの溶解液を調製する。</p>

記入者	園部 あみ
確認者	竹内 正美